



俺と太陽

book-fukunokami

俺と太陽

「俺も太陽を喰うんだ」

俺は太陽に向かって叫んだ。

「だめだ、太陽を喰ってはだめだ」

おや、だれかが叫んでる。

犬が一匹いる、

黒い犬だ。

ブラックドックだ。

喫茶店のブラックドッグかな。

「わん、わんわん、わん」

今度は犬の鳴き声だ。

「いいや、俺は太陽を喰いたいんだ」

「無理だわん、太陽は喰えない」

「当たり前だ、喰いたいだけだ、無理を承知で喰いたいんだ」

「そうなのかわん、勢いだけなのかわん」

「そうだ意気込みだ」

「じゃあ、もう止めないわん」

「止めないもなにも喰えないし」

俺と犬のひと時だった。